大学入試研究ジャーナル第 35 号, 247-254, 2025

教員養成単科大学における「地域枠」選抜入学者の特徴分析

――他の選抜種との比較から――

山田 美都雄（宮城教育大学）

本研究では，宮城教育大学が令和４年度入試から新たに導入している２種の「地域枠」選抜制度による入学者の特徴を把捉することを目的とし，学部学生対象のアンケートデータに基づく計量的な分析を行った。その結果，いずれの「地域枠」選抜制度の入学者においても，「就職希望地域」や「教員志向性」の点で，一部課題は見られるものの，ポジティブな傾向が観察された。今後，より詳細な追跡による検証が求められる。

キーワード：「地域枠」選抜，教員養成，選抜制度

1 本研究の目的

本研究の目的は，国立の教員養成単科大学において実施されている「地域枠」選抜の個別事例から，当選抜を経て入学した学生の特徴を把握することにある。本稿でいう「地域枠」選抜とは，大学入学者選抜への出願に際し，「志願者の出身地域または卒業後の就職地域に関して何らかの地域的制限を課す」選抜と定義する（参考：山田，2024）。

本稿では，令和４年度入試から「地域枠」選抜を新たに導入している宮城教育大学の事例を取り上げ，「地域枠」入学者の入学後の動向について，他の選抜による入学者との比較を追跡的分析に依拠する形で行い，その実像を計量的な側面から析出する。そして，当該選抜枠の機能性を検証し，評価することを目指す。なお，本研究では個別大学における事例分析とはなるが，教員養成大学において同様のアプローチを行った研究は管見の限り確認されておらず，また，今日，文部科学省が推進する「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」が展開される社会的な状況を鑑みるに，本研究の分析観点から何らかの知見を得ることの社会的意義は認められるところだろう。

2 宮城教育大学の「地域枠」選抜制度

宮城教育大学（以下，本学と称する）では，令和４年度入試より，学校推薦型選抜において「宮城県内定着枠」，総合型選抜において「地域定着枠」という２種の選抜枠を設定している。これら２種の「地域枠」は，下記に示す推薦要件ないし出願要件に示されているように，本学が地域に着実に教員を輩出することを念頭に導入された制度である。各選抜の具体的な推薦要件・出願要件，選抜方法等は，以下の通りである。

2.1 学校推薦型選抜「宮城県内定着枠」制度の概要

本学では，初等教育専攻において学校推薦型選抜の「宮城県内定着枠」（募集人員 10 名）として，下記の推薦要件及び選抜方法を課す選抜を実施している（『令和６年度入学者選抜要項』より引用，下線部は引用者による）。

> ⑵ 推薦要件
> 上記の出願資格に該当し，宮城県内定着枠は①～⑤，一般枠は①～④のすべての推薦要件をみたすこと。
> ① 教員になろうとする強い意志を持つ者であること。
> ② 高等学校等調査書の全体の学習成績の状況（全体の評定平均値）が 4.0 以上の卒業見込みの者であること。
> ③ 本学入学後，意欲的に研鑽に努め得る者であること。
> ④ 合格した場合は，本学への入学が確約できる者であること。
> ⑤ 卒業後は，宮城県内の特定の地域(＊1)において教職に就くことを強く希望する者であること（宮城県内定着枠のみ）。
> ＊1 宮城県内の特定の地域・・・大崎市，栗原市，加美町，色麻町，涌谷町，美里町，石巻市，登米市，東松島市，女川町，気仙沼市，南三陸町
>
> ⑶選抜方法
> 専攻別課題，集団面接及び個人面接（含出願書類）を課し，総合的評価を行い 合格者の決定を行う。 配点：専攻別課題 100 点 集団面接 100 点 個人面接（含出願書類）100 点

このように，当選抜では，推薦要件の⑤に示すよう

に宮城県内の特定地域（12 市町）において教職に就くことを志願者に求めている。なお，当選抜においては，志願者の出身地に関しては制限を課していない。そのため，上記の地域以外からの受験も可能である。

2.2 総合型選抜「地域定着枠」制度の概要

次に，本学の総合型選抜として設定される「地域定着枠」（募集人員８名）について説明する。本学では当選抜を，芸術体育・生活系教育専攻で導入している。当専攻は，主に音楽，美術，保健体育，技術，家庭科の５教科の教員免許を取得することを目指す専攻である。これらの５教科については，本学ではこれまで初等教育領域及び中等教育領域の中に配置されていたが，令和４年度入試において一つの専攻として独立させる形で改組を行った。当専攻の「地域定着枠」については，出願要件及び選抜方法を下記のように課している（『令和６年度入学者選抜要項』より引用，下線部は引用者による）。

⑵ 出願要件
上記の出願資格に該当し，地域定着枠は①～⑤，一般枠は①～④及び⑥のすべての出願要件をみたすこと。
① 教員になろうとする強い意志を持つ者であること。
② 高等学校等調査書の全体の学習成績の状況(全体の評定平均値)が 3.5 以上であること。
③ 本学入学後，意欲的に研鑽に努め得る者であること。
④ 合格した場合は，本学への入学が確約できる者であること。
⑤ 卒業後は，宮城県以外の地域において教職に就くことを強く希望する者であること（地域定着枠のみ）。
⑥ 令和６年度大学入学共通テストの本学指定教科・科目を受験する者であること。

⑶選抜方法
一般枠は①～⑤，地域定着枠は①～④により選考を行う。
① 選考は，志願する教科ごとに行う。
② 各教科の地域定着枠と一般枠を合わせた志願者数が，各教科の一般枠募集人員の４倍程度を超えた場合，地域定着枠の全教科及び該当する教科の一般枠において出願書類 による第１次選考を行う
③ 第２次選考は「出願書類」，「個人面接」及び芸術・体育系教育コースのみ「実技」（詳細は「総合型選抜学生募集要項」で公表）を課し，総合判定する。
④ 「個人面接」は，受験者が自身の志望動機，２つ以上の免許を取得することによるキャリアプラン等を面接員にプレゼンテーションしたうえで実施する。（以下，略）
⑤ 一般枠第２次選考合格者については，大学入学共通テストで 450 点以上の者を最終合格者とする。
※地域定着枠に志願し，不合格の場合，一般枠において合否判定を行う（一般枠の出願要件を満たすことを要件とする）が，希望により一般枠の合否判定を行わないこともできる。

このように，総合型選抜においては，出願要件の⑤に示すように，「宮城県以外」の地域において教職に就くことを強く希望する者，という地域的要件を課している。ちなみに，上記の「宮城県以外」という表記に見られるように，具体的な地域を特定していない理由については各種要項等で明文化されていないが，当選抜において具体的な地域を指定する形で選抜枠を設けることが困難であったこと，本学の入学生の大半は東北地域出身の学生で構成されており就職地域の大半も東北地域を見込むことができること，などの理由を挙げることができよう。なお，当選抜においても，出身地に関して地域的制限はかけていない。また，学校推薦型選抜とは異なり，当選抜には過卒生でも出願することが可能である。

2.3 本学の「地域枠」選抜の志願倍率

学校推薦型選抜における「地域枠」選抜の志願動向については，表１に示すとおりである。表１を見るとわかるように，宮城県内定着枠は，導入初年度の令和４年度では募集人員 10 名に対し，志願者数が９名となり志願倍率は 0.9 で１倍を切ったが，その後は，２倍台となり，令和６年度入試においては 2.8 倍となり，一般枠をやや上回る水準の志願倍率となっている。

表１ 本学の学校推薦型選抜の志願動向

	宮城県内定着枠			一般枠		
入試年度	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
令和4	10	9	0.9	38	111	2.9
令和5	10	20	2.0	38	102	2.7
令和6	10	28	2.8	38	100	2.6

次に，総合型選抜における地域定着枠と一般枠の志望動向については，表 2 に示すとおりである。これを

見ると，地域定着枠は導入初年度の令和４年度入試においては 6.8 倍となり，その後低下し，令和６年度入試においては 4.3 倍となっている。なお，一般枠について，表 2 で示す数は出願当初の志願者数であり，実際の選抜に際しては地域定着枠の不合格者で一般枠での合否判定を希望する者も含まれることになるため，参考値となる。

表２ 本学の総合型選抜の志願動向

	地域定着枠			一般枠		
入試年度	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
令和4	8	54	6.8	37	29	0.8
令和5	8	43	5.4	37	23	0.6
令和6	8	34	4.3	37	28	0.8

※一般枠には「地域定着枠」不合格の場合の受験希望者が加わるため参考値。

3 先行研究と本研究の課題

近年，国立の教員養成系大学・学部においては，「地域枠」選抜の新規導入事例が相次いでおり，その実施規模は令和５年度入試時点で半数以上に達している（山田，2024）。ただし，当選抜を経た学生がどのような特徴を持っているのか等の具体的な内実については，これまでの入試研究においてほとんど明らかになっておらず，一部に個別大学の実施事例が紹介されるにとどまっている（たとえば，大久保ほか，2024）。

また，「地域枠」を用いた大学入学者選抜としては，かねてより医学部を中心に展開がなされてきたところであり，たとえば，医学部における学生の地域医療に対する認識状況を把捉した研究が見られる（大口ほか，2015 など）が，やはりその数は限られている。

本研究では，「地域枠」選抜を経て入学した学生がどのような特徴を有しているのか，また，入学後にどのような変化が生じているのかといった具体的な様相について，実態的なデータに基づく形で検証する。

4 調査概要

本研究では，令和４年度と令和５年度に宮城教育大学で実施した学部学生対象アンケートのデータを用いる。調査時期はいずれも 12 月中旬である。この２年度分のデータを分析することで，「地域枠」入学者の特徴や傾向をつかむことをねらいとする。主な分析対象は，初等教育専攻の学校推薦型選抜「宮城県内定着枠」の入学生と，芸術体育・生活系教育専攻の総合型選抜「地域定着枠」の入学生である。いずれについても比較対象として，同専攻の他の選抜種（一般枠，一般選抜の前期日程・後期日程）の学生を設定する。

5 分析方針

本研究では，「地域枠」選抜入学生の特徴把握のため，以下の３観点を設定する。これらの項目は，今日の教員養成大学における「地域枠」選抜の成果を把捉するうえで，肝要となる観点と考えられる。

・「教員志望状況」･･･「あなたは将来, 教員（保育士は除く）になることを志望していますか。」の設問に対し，「1.はい」「2.いいえ」「3.まだ決めていない」の回答。

・「就職希望地域」･･･「あなたは将来,どの地域で働きたいと考えていますか。」の設問に対し，「国内」と回答した場合に，「それは具体的にどの地域ですか。(複数回答可)」と問うた設問に対する回答。

・「ディプロマ・ポリシー(DP)の達成度」･･･DP 計７項目の達成度得点（1.まったく身につけていない～4.おおむね身につけている）の総和（7～28 点）。[1)]

6 分析結果

6.1 教員志向性

6.1.1 「宮城県内定着枠」入学生の教員志向性

まず，教員志向性について検証する。図 1 に示すように，１年次時点での教員志向性は，令和４年度入学生，令和５年度入学生ともに宮城県内定着枠，一般枠，前期日程の教員志向率が，後期日程に比して高いことが分かる。この結果から，宮城県内定着枠の入学生の教員志向性が一般枠の入学生に比して取り立てて高いとは言えず，宮城県内定着枠であっても未定層（「ま

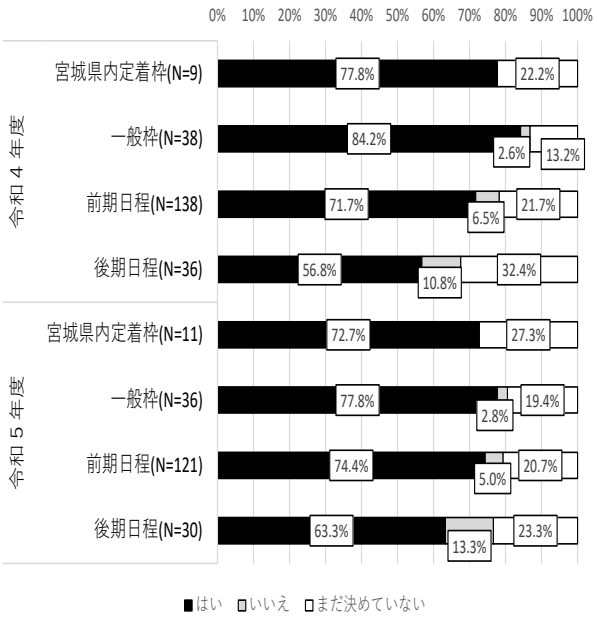

図１ 推薦_教員志向性（１年次時点の比較）

だ決めていない」と回答した層）が２割強～３割弱程度含まれている。ただし，宮城県内定着枠においては教員非志望の者は確認されていない。

次に，令和４年度入学生の教員志向性の変化について，追跡結果から確認する。表 3 から，宮城県内定着枠入学生に関して，１年次に教員志望であった者は全員２年次においても教員志望を維持しているが，１年次時点で未定であった学生については，１名が非志望に転じている。また，一般枠と後期日程については，１年次時点より２年次時点において，教員志望率がやや低下している（一般枠：84.2%→78.9%，後期日程：56.8%→48.6%）が，前期日程では若干の上昇がみられる（前期日程：71.7%→75.8%）。

表３ 推薦_教員志向性の変化（１年次→２年次）

	＜1年次＞		＜2年次＞ はい	いいえ	まだ決めていない	計
宮城県内定着枠	はい	N	7			7
		%	100.0%			100.0%
	まだ決めていない	N		1	1	2
		%		50.0%	50.0%	100.0%
	計	N	7	1	1	9
		%	77.8%	11.1%	11.1%	100.0%
一般枠	はい	N	29		3	32
		%	90.6%		9.4%	100.0%
	いいえ	N		1	0	1
		%		100.0%	0.0%	100.0%
	まだ決めていない	N	1		4	5
		%	20.0%		80.0%	100.0%
	計	N	30	1	7	38
		%	78.9%	2.6%	18.4%	100.0%
前期日程	はい	N	84	1	10	95
		%	88.4%	1.1%	10.5%	100.0%
	いいえ	N	1	6	2	9
		%	11.1%	66.7%	22.2%	100.0%
	まだ決めていない	N	15	4	9	28
		%	53.6%	14.3%	32.1%	100.0%
	計	N	100	11	21	132
		%	75.8%	8.3%	15.9%	100.0%
後期日程	はい	N	17	1	3	21
		%	81.0%	4.8%	14.3%	100.0%
	いいえ	N		1	2	3
		%		33.3%	66.7%	100.0%
	まだ決めていない	N		2	9	11
		%		18.2%	81.8%	100.0%
	計	N	17	4	14	35
		%	48.6%	11.4%	40.0%	100.0%

6.1.2 「地域定着枠」入学生の教員志向性

続いて，総合型選抜の地域定着枠入学生の１年次時点での教員志向性を確認する。図 2 に示すように，令和４年度入学生においては，教員志望者が一般枠において 66.7%であったのに対し，地域定着枠は１名を除く 88.9%が教員志望と回答（1 名は未定と回答）し，地域定着枠入学生の教員志向性が相対的に高い。また，令和５年度入学生についても，同様に地域定着枠入学生の教員志望率がより高いが，1名が非志望である。

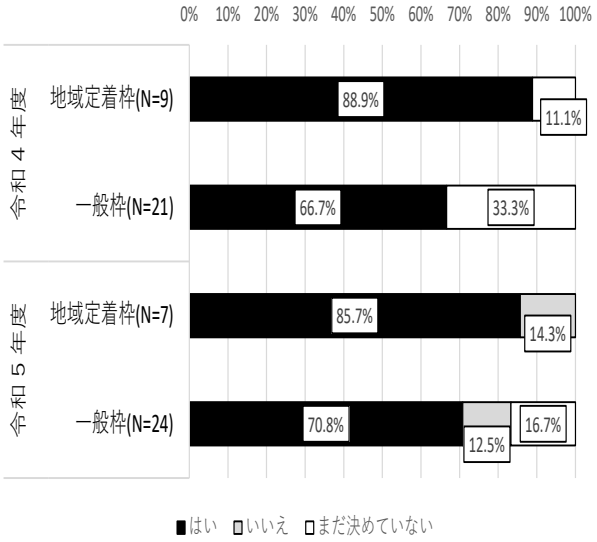

図２ 総合型_教員志向性（１年次時点比較）

さらに，令和４年度入学生の教員志望状況について追跡分析を行った結果を表 4 に示す。これを見ると，２年次時点において地域定着枠の教員志向性が１年次

表４ 総合型_教員志向性の変化（１年次→２年次）

	＜1年次＞		＜2年次＞ はい	いいえ	まだ決めていない	計
地域定着枠	はい	N	4	1	1	6
		%	66.7%	16.7%	16.7%	100.0%
	まだ決めていない	N	0	0	1	1
		%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	計	N	4	1	2	7
		%	57.1%	14.3%	28.6%	100.0%
一般枠	はい	N	8	1	4	13
		%	61.5%	7.7%	30.8%	100.0%
	まだ決めていない	N	1	4	2	7
		%	14.3%	57.1%	28.6%	100.0%
	計	N	9	5	6	20
		%	45.0%	25.0%	30.0%	100.0%

の 88.9%から 57.1%に，一般枠の教員志望においては１年次の 66.7%から 45.0%となり，地域定着枠，一般枠ともに２年次において「教員志向性」の弱まりが確認される。なお，地域定着枠，一般枠ともに，１年次から２年次にかけて教員志望から教員非志望へと変化する者も１名観測されている。

6.2 就職希望地域

6.2.1 「宮城県内定着枠」入学生の就職希望地域

宮城県内定着枠入学生の就職希望地域については，図 3 に示すように，令和４年度入学生，令和５年度入学生ともに，宮城県（仙台市除く）を選択する率（複数選択可）が 100%となっており，他の選抜区分に対して顕著に高い。[2]

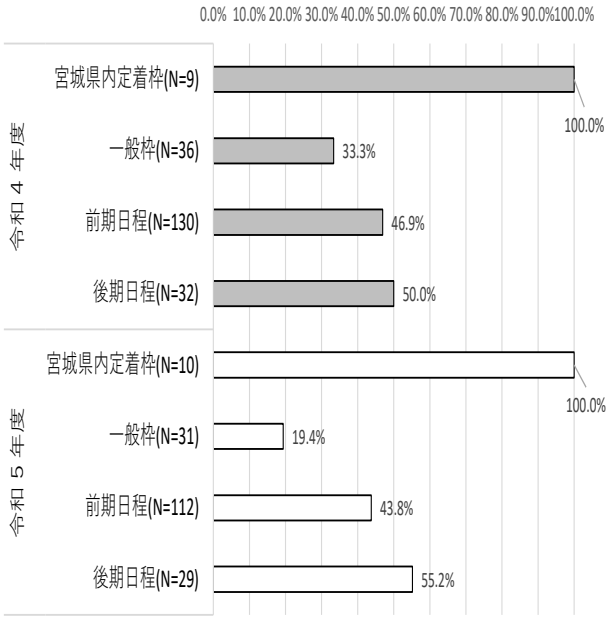

図３推薦_就職希望地域_宮城県（仙台市除く）
（１年次時点の比較）

また，表 5 に示した，令和４年度入学生の追跡分析の結果から，１年次から２年次にかけて，地域定着枠入学生は就職希望地域として全員が「県内」を維持していることが分かった。

表５推薦_就職希望地域_宮城県（仙台市除く）の変化
（１年次→２年次）

	＜1年次＞		＜2年次＞ あてはまらない	あてはまる	計
宮城県内定着枠	あてはまる	N		9	9
		%		100.0%	100.0%
	計	N		9	9
		%		100.0%	100.0%
一般枠	あてはまらない	N	19	3	22
		%	86.4%	13.6%	100.0%
	あてはまる	N	3	9	12
		%	25.0%	75.0%	100.0%
	計	N	22	12	34
		%	64.7%	35.3%	100.0%
前期日程	あてはまらない	N	55	9	64
		%	85.9%	14.1%	100.0%
	あてはまる	N	11	45	56
		%	19.6%	80.4%	100.0%
	計	N	66	54	120
		%	55.0%	45.0%	100.0%
後期日程	あてはまらない	N	10	4	14
		%	71.4%	28.6%	100.0%
	あてはまる	N	5	10	15
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	計	N	15	14	29
		%	51.7%	48.3%	100.0%

6.2.2 「地域定着枠」入学生の就職希望地域

次に，地域定着枠入学生における就職希望地域を確認する。図 4 に示すように，地域定着枠入学者で，制度趣旨に合致する，「宮城県以外」の都道府県を選択した率は，令和４年度入学生が 87.5%，令和５年度入学生は 83.3%となり，いずれも回答者のうち１名を除いて選択していた。これに対し，一般枠については，約半数程度が宮城県以外の都道府県を就職希望地域として選択しており，地域定着枠と一般枠との間に明瞭な差があることが確認された。

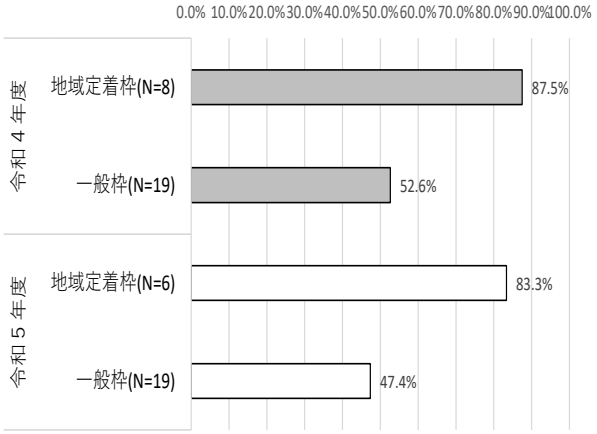

図４総合型_就職希望地域_宮城県外
（１年次時点の比較）

また，表 6 に示すように，地域定着枠の令和４年度入学生は，１年次から２年次にかけて，全員が就職地として「宮城県外」を候補として維持していることがわかる。

表 6 総合型_就職希望地域_宮城県外の年次間変化（１年次→２年次）

	<1年次>		<2年次>		
			あてはまらない	あてはまる	計
地域定着枠	あてはまる	N		6	6
		%		100.0%	100.0%
	計	N		6	6
		%		100.0%	100.0%
一般枠	あてはまらない	N	7	2	9
		%	77.8%	22.2%	100.0%
	あてはまる	N	1	8	9
		%	11.1%	88.9%	100.0%
	計	N	8	10	18
		%	44.4%	55.6%	100.0%

6.3 ディプロマ・ポリシー（DP）の達成状況

6.3.1 「宮城県内定着枠」入学生の DP 達成状況

最後の分析観点として，「DP 達成状況」について検証を行う。図 5 は，宮城県内定着枠入学生の１年次時点での DP 達成状況の得点を選抜種別に比較分析した結果である。これを見ると，取り立てて宮城県内定着枠に特徴的なアドバンテージは見られない。

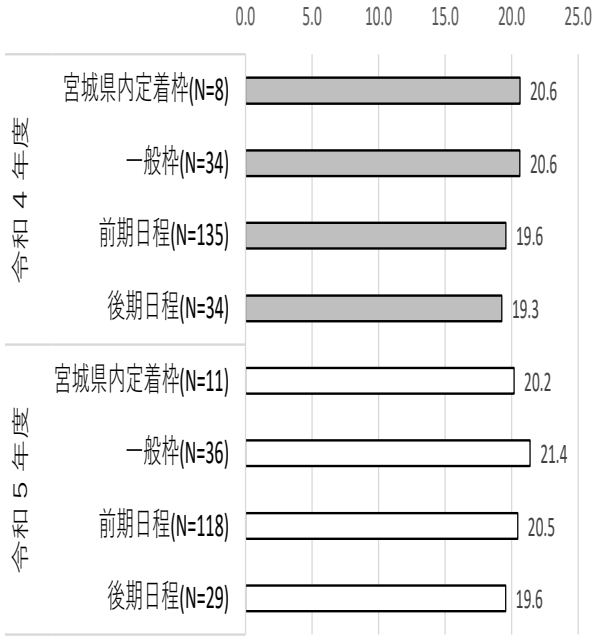

図 5 推薦_DP 達成状況（１年次時点の比較）

次に，図6として，DP達成状況について，１年次時点から２年次時点にかけての追跡分析によって変化を見た。度数が図 5 で示した数値からやや減っているが，宮城県内定着枠，一般枠においては若干の DP 得点の低下がみられる。これに対し，前期日程，後期日程は若干の上昇がみられる。ただし，いずれの差についても変化の幅は微小である。

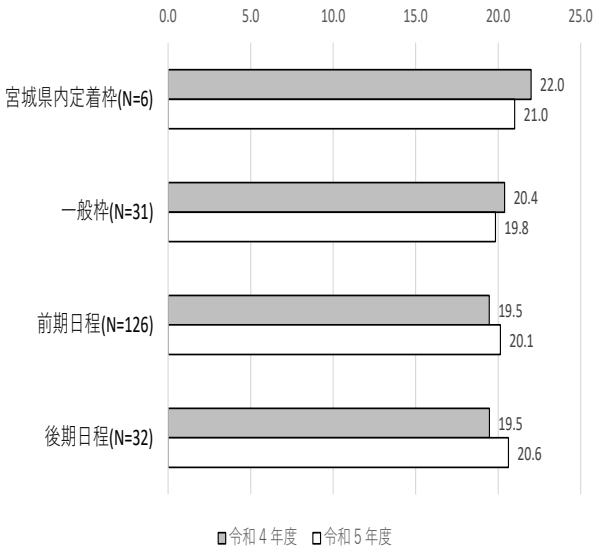

図 6 推薦_DP 達成状況の変化（１年次→２年次）

6.3.2 「地域定着枠」入学生の DP 達成状況

次に，芸術体育・生活系教育専攻の総合型選抜における DP 達成状況について確認する。図 7 に示すように，令和４年度入学者においては特段の差は見られなかったが，令和５年度の地域定着枠入学者において，一般枠に比して DP 得点がやや高い結果となった（ただし，t 検定の結果，有意差なし）。

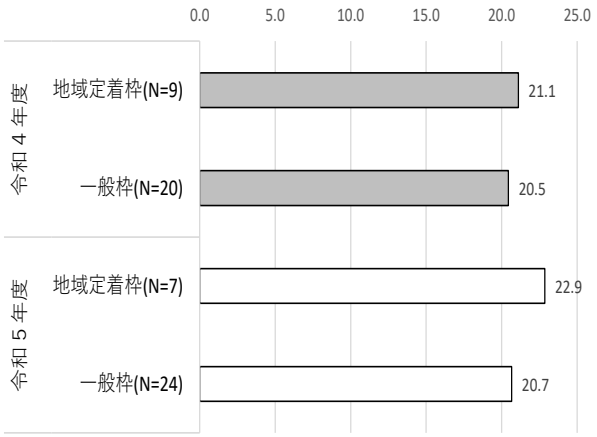

図 7 総合型_DP 達成状況（１年次時点）

さらに，追跡分析から，１年次から２年次にかけてのDP達成状況の変化を図8に示した。これを見ると，地域定着枠，一般枠ともに DP 得点に大きな変化は見られない。

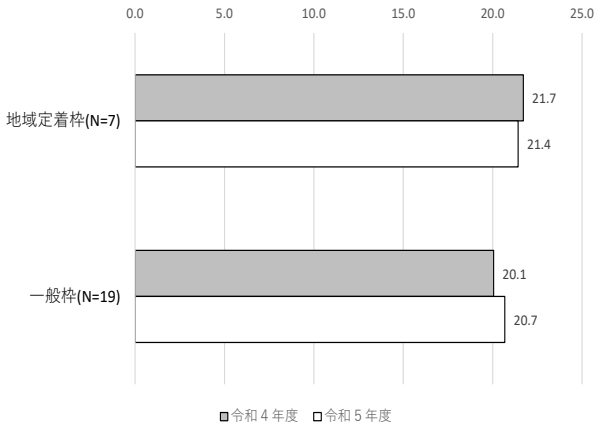

図８ 総合型_ DP 達成状況の変化（１年次→２年次）

7 まとめと考察

本研究で設定した３つの観点による分析結果から，下記の知見が導出された。

①教員志向性について

・宮城県内定着枠入学生の教員志向性は，一般枠，前期日程とともに相対的に高水準にあり，２年次時点での持続性も確認される。

・地域定着枠入学生の教員志向性は，一般枠に比して相対的に高いものの，２年次において低下する状況が確認される。

②就職希望地域について

・宮城県内定着枠入学生の就職希望地域は，（複数選択可の回答結果ではあるが）制度の趣旨に合致した選択が見られ，２年次時点での持続性も確認される。

・地域定着枠入学生の就職希望地域は，若干名を除いて制度の趣旨に合致した選択が見られ，２年次時点での持続性も確認される。

③DP の達成状況について

・宮城県内定着枠入学生の DP 達成状況は，他の選抜区分と顕著な相違は確認されない。

・地域定着枠入学生の DP 達成状況は，令和５年度入学生において一般枠に比して若干高い結果が認められたものの統計的な有意差は認められなかった。また，令和４年度入学生において差は特段生じていなかった。

以上の分析結果から，教員養成大学において「地域枠」選抜を実施することの効果は，特に，「就職希望地域」の点で一定程度の誘導性を確保できること，また，持続性の点でやや難がみられるものの，「教員志向性」の確保という点でも相対的に有利に働く可能性があること，この二点にあるといえる。

なお，これらの結果を解釈する際に強調しておきたいこととして，上記の二点は，志願者の出身地制限をかけていない，就職や奨学金等の点で有利に働くようなインセンティブを設定していない，という条件下で達成されたものである，ということが挙げられる。すなわち，これらは近代社会の構成原理である「個人の自由」や「機会の平等性」という領域に極力制限を加えない方式で達成された結果である。この背景には，大学側が発信する意図を受験生側が主体的に理解し行動に移すという，相互の暗黙の信頼関係という社会的事実（社会関係）が生起していることが示唆される。もちろん，入試というものを構築するにあたっては，受験する側の打算が大いに働くことを前提に考えなければならない。ただ，同時にそうした意図に反する反応というものは，あくまで「少数的な反応」であるといった点も同時に考慮に入れる余地があるのではないだろうか。つまり，そうした打算可能性ゆえに入試制度の導入を積極的に控える必要は必ずしもなく，集団的な反応として見た場合に「成立しうる可能性」を期待するという態度である。いうまでもなく，この判断の背後には，選抜要項や募集要項，出願書類の様式等での細部にわたっての工夫や，具体的な選抜に際しての実施上の工夫などが為されることが肝要であるだろう。

8 今後の課題

本研究が残している課題としては，第一に，２年次以降の追跡結果を踏まえていないという点である。特に本研究での知見は，「教員就職」という直接的なエビデンスに支えられたものではないという点である。また，「就職希望地域」についても，本稿ではあくまで「複数選択」という条件下での選択としていることについても十分に留意しなければならない。この点については，引き続き，今後，データ観測を継続していくことが求められる。第二に，本研究の知見は，個別大学における知見にとどまっているという点である。現在，教員養成大学において「地域枠」の設置が拡張的に展開されつつある中で，日本社会全体の動向として，この「地域枠」制度の検証が求められる時期がやがて到来することは容易に想像される。そうした際に，

本研究での枠組みや設定指標の妥当性などを改めて吟味し，いっそう社会的に有益な知見を形成する余地は多分に残されている。この点についても，今後の研究課題としたい。

注

1) DP の項目は以下の 7 項目である。

①学校教育や教職に関する専門的知識および技能

②学習指導に関する理論および方法を活かしながら，教育実践を展開する基礎

③幼児・児童・生徒に対する理解・尊重を基盤としながら，生徒指導に向けて協働しつつ適切に対応する姿勢

④学校の構成員としての役割を理解し，教職員や保護者や地域等と連携・協働しながら，　学校を運営していこうとする態度

⑤教員としての倫理観と使命感，幅広い教養と知性を基にした適切な行動

⑥学校教育における様々な課題を認識し探求心を持って主体的に学び続ける基盤

⑦a【初等教育専攻】発達段階に応じた指導力とともに，小学校の各教科等に関する知識・技能

⑦b【芸術体育・生活系教育専攻】芸術体育・生活系の教科等を中心としつつ、異校種または複数教科にわたる教科等に関する知識・技能を基盤として、生徒に適切に対応する学習指導力

2) ここでの「宮城県（仙台市除く）」とは，「宮城県内定着枠」における「宮城県内の特定の地域」と必ずしも一致するものではない点に注意されたい。宮城県の教員採用試験は宮城県と仙台市が実施しているが，ここでは，「宮城県内の特定の地域」を志望する学生は「宮城県」を志望することになる，という前提で分析を行った。

参考文献

大口明日海・北村悠・長瀬大・水野敬悟・恒川幸司・今福輪太郎・村上啓雄・西城卓也 (2015).「地域枠及び一般枠学生の地域医療に対する認識の比較調査」『医学教育』**46**(5),419－424.

大久保貢・田中幸治・三浦麻 (2024).「高校の探究学習の支援と高大接続入試―教育学部嶺南地域枠入試の設計と導入―」『大学入試研究ジャーナル』**34**, 104－110.

山田美都雄 (2024).「国立教員養成大学・学部における『地域枠』選抜の現況分析」『大学入試研究ジャーナル』**34**, 118－125.